



天寿酒造株式会社

〒015-0411
秋田県由利本荘市矢島町城内字八森下117
TEL 0184-55-3165 FAX 0184-55-3167
http://www.tenju.co.jp
第60号 2009年11月号

第10回

天寿を楽しむ会のご案内

秋の深まりとともに、じっくりと熟成されたお酒のおいしい季節がやってきました。人・水・米にこだわり、酒造り一筋に歩み続ける天寿酒造が、選りすぐりのお酒でお迎えする「天寿を楽しむ会」を今年も開催いたします。秋の夜長に色々なお酒を利き比べながら、楽しい一時を過ごしませんか？

無農薬田のアイガモ鍋 マッチングコンテスト(きき酒) 天寿商品がもらえる抽選会



開催日 平成21年11月14日(土)午後5時30分～

場所 矢島コミュニティセンター(日新館ホール)

会費 3,000円(税込) 220人限定

当日参加は出来ませんので予め入場券をお買い求め下さい

定員になり次第締め切らせて頂きます 会場は立食形式となります

お申し込み・お問い合わせは天寿酒造まで

天寿酒造株式会社 秋田県由利本荘市矢島町城内字八森下117

TEL 0184-55-3165 FAX 0184-55-3167

E-mail info@tenju.co.jp URL http://www.tenju.co.jp

ご意見、ご感想をおきかせください。

日本酒についてもっと知りたい方、天寿についての情報を
を知りたい方、ご連絡をお待ちしております。

E-メール …… info@tenju.co.jp

ホームページ …… http://www.tenju.co.jp

フリーダイヤル …… 0120-50-3165

FAX …… 0184-55-3167

蔵見学希望の方は、準備等の都合がございますので事
前にご連絡下さい。

蔵元通信(2ヶ月に1度奇数月に発行予定)希望の方は
ご連絡下さい。無料

メールマガジン(天寿情報)希望の方は、E-mailで

136回目の酒造り 代表取締役社長 大井建史

稲刈りも十月の中旬過ぎには終
わり、酒蔵には十九日から蔵人が
入り始め二十六日に初米研ぎとな
ります。いよいよ今年も酒蔵に活
気が戻ってきました。

長年頭と麹の長を務め、通算45
年もの長きにわたって活躍頂いた
高橋重美さんが、後継者の成長を
確認の上引退を希望。さらにもう
一名が市議員選挙立候補のため
急遽転進により、二名の新人が入
蔵しました。佐藤次男さんと三浦
弘章さんです。偶然ですが私と常
務の同級生です。言う事はあま
り若くは無いと言う事ですが、牛
乳のメーカーに長年勤め親の為に
リターンしたり、弱電企業に長年
勤めこの不況時のリストラにあっ
たりの苦労人ですが、二人ともこ
の際農業を頑張ってみようと思っ
し始めました。この「物を育てよ
う」と言う気合が蔵人をお願いす
るのにぴったりだと考えました。
常勤社員の多能力化の試みも本
格的に稼働し、いよいよ全員一丸
体制の酒造りが本格化してしま
した。酒造りは歴史的に地方の安
定企業だったせいか、常勤社員
の方「これまでは感覚」が強く、

十年にわたる機構改革(弊社レベ
ルでは気分改革と言った方が適切
かも知れませんが)が難儀な人も
いる様です。しかし、良き日本、地
方文化・食文化の保存の為に、
是非成し遂げなければいけませ
ん。

一九九九年十一月に第一号です
ので、この蔵元通信も丸十年を超
えました。これは私の社長として
の十年と等しく、人の力とは大し
たものだと言う事や、人生には仕
事だけではない色々な事が起き、
自分個人の力など知れている事を
思い知った十年間でもありまし
た。

昨年来の空前の不況で誰もが大
変な世の中になってしまいました
が、清酒業界は空前の和食ブーム
のお陰で海外にも市場を求め、ワ
インと並ぶ高いステイタスを築か
んと地方中小酒蔵が必死に頑張っ
て来ましたが、昨年の酒造り期間
は原油が高騰し、諸々の原価が高
騰したにもかかわらず、日本酒の
大手企業は益々大容量・低価格へ
と狂ったように進出し、まるで日
本酒のステイタスを一生懸命下げ
ようとしているかの様に思えてな
りません。



資本主義・中央の地方への無理解に
より消滅の危機に直面し、アメリカ
と同じようにゴーストタウンの誕生
が間近になってきた感があります。
新政権は酒と煙草は体に悪いから
税金を上げると、知らない内にマニ
フェストに入れた細かい具体的内容
を盾に頑ななようですが、明日をも
知れない不安定な情勢の中で、人間
関係が希薄になった現在の社会にこ
そ、飲酒による癒しの効果や人間関
係の潤滑油としての役割の大きさを
理解してもらいたいものです。そん
な事が理解できないから小正月等を
無くしても連休にしてしまえば良い
と言う事をやってみようのです。日
本的な穏やかな人間関係の中で、コ
ミュニケーション・ツールとして、
日本酒の持つ本来の役割を見直し、
優しく・粋に世代を超えたつながり
を作り上げたいものです。

天寿の歴史

(六)-17



杜氏の系譜(13)

代表取締役会長

六代目 大井 永吉

中野恭一杜氏が退職するに当たって後任に決めたのは、季節雇用の山内杜氏を新しく頼む方法ではなく、年間雇用の社員の村上嘉夫だった。

村上は隣町の鳥海町出身、昭和三十八年矢島高校を卒業してすぐに製造課に入社しているが、その年の造りから中野杜氏になっただけなので、やはり何かの縁があったのだろう。

彼は高校時代相撲部の選手で、当時矢島高校相撲部は県下でも上位の実力を誇っていて、彼も活躍した一人だが、相撲で鍛えた無理のきく頑健な体格と温厚で粘り強く誠実な性格を見込んでの事であった。

最初の仕事は検査立会(製造関係の帳簿管理記帳、分析、税務検査立会)であったが、入社の年の造り期間、湯沢の爛漫さんにお願いで造り全般の基礎的なことから特に彼の担当の仕事について研修させて頂いた。このことは彼のその後に変役に立った事であ

り、ご指導頂いた技師長谷金弥氏には、後になって彼が杜氏時代も技術指導者の立場からお教えを頂き大変お世話になってる。

彼の仕事は、杜氏の居ない夏の季節の貯蔵酒管理と、壇詰出荷のため原酒の調査と、巾広い分野に及んだが、無難にこなしていた。特に出荷のための調査は酒のきき酒能力が絶対必要だが、彼は天性の優れたものを持っていたと思う。きき酒能力は訓練によってもある程度向上するが、やはり生まれながらのものが大きいと私は思っている。彼は中野杜氏のもと三十年間右肩上がりに増え続ける生産量と、出荷量を事故なく管理し、ブレンドし製品化して天寿の銘柄を維持発展させてきたのである。縁の下の力持的存在であったがその功績は実に大きいものがあった。

さて平成三年六月一日付けで杜氏に就任、造りのほうも一通りの現場は経験しているとはいえ専門の役はこなしていないので、いろいろ心配と苦労はあったと思う。しかし中野杜氏が抜けただけで麴、酒母、蒸し、もろみなどスツツは全部そのままだったの

で、計画と進行をキチンとやり、個々の良さを纏め上げる努力をしたのである。ただ大吟醸の仕込みだけは人任せには出来ない腕のみせどころ、夜も休みなく温度管理などに心血を注いでいる様子が伺えた。

努力の甲斐あって、平成三年・四年・八年全国新酒鑑評会で見事に金賞を射止めたのであった。別に全国新酒鑑評会銀賞六回、平成三年・七年、秋田清酒品評会知事賞等秋田県・東北の品評会・鑑評会で天寿の名声を維持した功績は大である。

平成十四年八月に健康上の理由で、残念ながら定年に二年を残して四十年の勤めで後進に道を譲ったのであった。



村上嘉夫杜氏

【試飲即売会】

西武百貨店池袋店

11/4(水)〜10日(火)

和洋酒売場にて、今年最後の天寿社員派遣の即売会。営業の佐藤博輝が皆様のお越しを心よりお待ちしております。

高島屋横浜店

11/4(水)〜10日(火)

地下1階酒売場にて、花酵母の蔵の試飲即売会を開催します。新「鳥海」を始め天寿も5商品を出展いたします。

東急東横店

1/2(土)〜6日(水)

新春初売りの試飲即売会を和洋酒売場にて行います。新年最初の即売会です。お近くの皆様よろしくお願致します。

【酒楽活菜】

東京プリンスホテル「和食 清水」にて毎月恒例のお酒と料理を楽しむ会第118回「酒楽活菜」を開催いたします。担当蔵元は「天寿酒造」と「笹の川酒造」です。

当日は弊社の社長が皆様と楽しい時を過ごさせていただきます。是非ご参加下さい。

日時 12月16日(水)

午後6時30分開会(6時受付開始)

参加費 お一人様 一万円

お申込み・お問合せ先

東京プリンスホテル「和食 清水」
TEL03(3432)1143

お酒の NEWS



10月10日 鳥海山に初冠雪

初しぼり生酒 12月17日発売予定!

秋の収穫も終わり、新米が蔵に入り始め、精米所では蔵人皆が今年の米の出来に期待の目を向けています。27日が初蒸して売上好調の純米吟醸から造りに入る為、最初から気合が入り、杜氏の緊張感が蔵全体を引き締めています。

最初に生み出される初しぼり。ご期待下さい。

純米吟醸雪ごよみ生酒



1・8L 2835円 720ml 1418円

初しぼり純米吟醸生酒



1・8L 2625円 720ml 1313円

初しぼりにごり本醸造生酒



1・8L 2100円 720ml 1050円

婦人画報新年号に天寿の記事

先日婦人画報の新年号向けに、「天寿大井家と蔵人達の正月迎え」の取材を頂きました。高名なお宅や、美術的・歴史的価値の高いお宅の特集記事は興味深く、「へ〜! 大したもんだね」と眺めた記憶があります。まさか我家が取材されるとは!! 驚き腰も引きましたが、日本酒の為天寿の為に来られた記者の方も、実際にお正月行事をされているお宅こそが重要なのです。と家内の作った御節や母の正月飾りを褒め「天寿と婦人画報。この二つの老舗は失われつつある美しくて清々しい日本の古き良き伝統を守り続けて行くべく、幸福な出会いをしました。お正月は一年に一度、家族が集い新年を寿ぐ特別な時間。皆様も『天寿』と『婦人画報』で素敵なお正月迎えを」との下書き「コピー」に感心。別紙のコラボ企画是非お買い上げを...

敬老の日お祝い企画に

お礼状を沢山頂きました

天寿の百周年の記念に、日本庄市由利郡の米寿の皆様にご酒の「天寿百年」をプレゼントして以来三十六年間毎年続けてまいりました。近年個人情報保護法が実施され米寿の方の名簿の入手が困難となり、現在の応募形式とさせて頂きました。今年も沢山の御方々にお礼状やお電話を頂きました。弊社が明治大正昭和平成と続けて参りましたのも、皆様のご愛顧のおかげです。今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

